

Title	1940年代のインドネシアにおける政治変動と暴力に関する研究
Sub Title	Political change and violence in the 1940s Indonesia
Author	山本, 信人(Yamamoto, Nobuto) Chandra, Elizabeth()
Publisher	
Publication year	2024
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2023.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、1940年代インドネシアにおける政治変動と暴力との関係を歴史的に解き明かすことを目的とした。この間4度の政治変動があった（オランダ植民地統治→日本軍政→インドネシア共和国独立→オランダの復帰→インドネシア主権獲得）。従来の研究では、政治変動「前」に暴力が発生した事実に着目した研究は極めて限られている。本研究では1940年代の社会的暴力に関して、当時のインドネシアでの新聞（インドネシア語と華語）、戦後オランダ政府が記録した文書や証言を収集分析した。その結果、1930年代末以降の政治体制を戦時体制と指定することで、1940年代にインドネシア各地で伝播した暴力の連鎖を解明できる。</p> <p>This research aims to provide a historical explanation of the relationship between political regime changes and violence in 1940s Indonesia. Throughout this period, the country experienced four significant political shifts: the transition from Dutch colonial rule to Japanese military administration, followed by Indonesian independence, the partial return of Dutch control, and ultimately, Indonesia's acquisition of sovereignty. This study utilizing a comprehensive approach that involves collecting and analyzing newspapers from Indonesia (in Indonesian and Chinese), as well as scrutinizing documents and testimonies archived by the post-war Dutch government. After examining documents thoroughly I became to think that it is useful to conceptualize the political regime in place since the late 1930s as a series of wartime regimes. This research aims to shed light on the interconnected chain of violence that occurred during the turbulent era of regime changes in 1940s Indonesia.</p>
Notes	研究種目：基盤研究(C) (一般) 研究期間：2021～2023 課題番号：21K12392 研究分野：東南アジア地域研究
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_21K12392seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12392

研究課題名（和文）1940年代のインドネシアにおける政治変動と暴力に関する研究

研究課題名（英文）Political Change and Violence in the 1940s Indonesia

研究代表者

山本 信人（Yamamoto, Nobuto）

慶應義塾大学・法学部（三田）・教授

研究者番号：50265922

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1940年代インドネシアにおける政治変動と暴力との関係を歴史的に解き明かすことを目的とした。この間4度の政治変動があった（オランダ植民地統治 日本軍政 インドネシア共和国 独立 オランダの復帰 インドネシア主権獲得）。従来の研究では、政治変動「前」に暴力が発生した事実に着目した研究は極めて限られている。本研究では1940年代の社会的暴力に関して、当時のインドネシアでの新聞（インドネシア語と華語）、戦後オランダ政府が記録した文書や証言を収集分析した。その結果、1930年代末以降の政治体制を戦時体制と指定することで、1940年代にインドネシア各地で伝播した暴力の連鎖を解明できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 政治変動と暴力との関係に新しい視角の提示。従来の研究は政治体制の変動後における暴力、すなわち政治変動が暴力を誘発するという前提に立っていた。それに対して本研究では、政治変動の「前」における暴力の事実に着目し、その要因、メカニズム、政治的含意に着目した。

2. 新しい分析概念の提示。本研究では、戦時体制という概念を導入することで、1940年代のインドネシアを一つの時代として捉える可能性を提示した。戦時体制概念によって、インドネシアではヨーロッパとアジアでの戦争と関係するという二段階の特殊環境を生み出したことを提示した。

研究成果の概要（英文）：This research aims to provide a historical explanation of the relationship between political regime changes and violence in 1940s Indonesia. Throughout this period, the country experienced four significant political shifts: the transition from Dutch colonial rule to Japanese military administration, followed by Indonesian independence, the partial return of Dutch control, and ultimately, Indonesia's acquisition of sovereignty. This study utilizing a comprehensive approach that involves collecting and analyzing newspapers from Indonesia (in Indonesian and Chinese), as well as scrutinizing documents and testimonies archived by the post-war Dutch government. After examining documents thoroughly I became to think that it is useful to conceptualize the political regime in place since the late 1930s as a series of wartime regimes. This research aims to shed light on the interconnected chain of violence that occurred during the turbulent era of regime changes in 1940s Indonesia.

研究分野：東南アジア地域研究

キーワード：インドネシア 政治変動 暴力 1940年代

1. 研究開始当初の背景

本研究は、植民地帝国の終焉にともなう脱植民地化という政治変動と社会的暴力についての研究である。脱植民地化とは権力の主従関係が転換する政治変動の典型例である。この政治変動をめぐっては20世紀末までは、脱植民地化過程での独立国の主権をめぐる研究、反植民地闘争の研究が多かった。ところが、過去20年ほどのあいだに、研究の主眼は脱植民地化の過程における虐殺や暴力の実情の再訪、人権侵害の実態と和解へと展開した。これは歴史認識の再構築の作業であり、植民地型暴力や脱植民地化における虐殺の発掘や再定義という取り組みへと繋がっている。本研究もこうした研究の展開の流れを受けて、脱植民地化の事例を東南アジアのオランダ植民地(インドネシア)に設定し、そこでの政治変動と暴力との関係を解明する。

これまでの研究で脱植民地化なる政治変動研究に限らず、政治変動期の経験が住民の政治社会関係や認識に多大なる影響を与えることは実証されている。それが住民の歴史認識の基盤となるからである。ところが、脱植民地化の過程で発生した暴力や虐殺の研究に限定してみると、対立構図が宗主国軍と現地勢力との対峙あるいは政治エリート間に絞られている場合が大半である。そこでは脱植民地化の過程では発生した予測不可能な事態への目配りが十分とはいえない。その典型例が、住民が主体となったマイノリティへの暴力、特に虐殺である。ところがこの点に関する研究はごく限られてきた。では、政治変動はどのように住民に認識されたのか、どのように住民主体の対マイノリティ暴力は発生したのか。また局地的な暴力は忘却されながらも、なぜナショナルな共通性を持つようになったのか。これらの「問い」に迫ることは、独立後の国家におけるマイノリティ差別の現代的起源を解き明かす作業になる。

2. 研究の目的

本研究は、1940年代を脱植民地化にともなう政治変動の時代として捉えることで、オランダ領東インド植民地国家の解体前後に発生した暴力の実態とメカニズムの解明を目的とする。脱植民地化と暴力に関する研究の大半は、第二次世界大戦を契機として、植民地戦争や反植民地ナショナリズムが発生したと捉える傾向が強い。ところが、占領される事態、あるいは戦後復興が急務というヨーロッパの宗主国での事情が植民地統治や社会へあたえた影響への研究は極めて限られている。宗主国の動揺は植民地国家に影響をあたえ、それが植民地社会に不安を呼び起こすことは容易に想像できる。本研究はこの点に着目し、1940年代の政治的に不透明な状態を政治変動の一形態と捉え、長期の脱植民地化の過程とした。本研究ではオランダ植民地帝国の終焉を事例として、1940年代に2度発生した政治変動「前」の社会的暴力の実態を探る。同時に本研究は、そこでの経験が独立インドネシアの政治と暴力との関係に繋がることを探る試みでもある。

より具体的には、本研究は、インドネシアの脱植民地化を1940年代における一連の政治変動として位置づけ、オランダ植民地帝国の解体の過程で発生した住民主体の暴力のメカニズムを解明することを目的とする。

本研究の学術的な独自性は、第一に、脱植民地化の起点を1940年5月のナチス・ドイツによるオランダ占領に置く点にある。従来の見方では脱植民地化は1945年の第二次世界大戦終了時あるいは1942年からの日本軍政期に求めていたが、オランダ植民地統治の揺らぎは1940年に始まっていた。すなわち、本研究はオランダ植民地帝国が動揺した時点を政治変動の起点とすることで、不可抗力的に開始したインドネシアの脱植民地化に着目する。第二に、住民主体の対華人暴力および虐殺に着目している点である。インドネシアでの脱植民地化という政治変動は各種の暴力を誘発する契機であったが、「権力の空白期」といわれた1945年から1946年以外、住民主体の暴力に関する研究は多くない。しかも本研究が扱う1942年と1948年にジャワ島で発生した華人虐殺については実態が未解明のままである。第三に、政治変動と対華人暴力発生メカニズムの解明である。本研究は政治変動「後」ではなく、政治変動が明確に起こる「前」の事案に着目している。インドネシアの文脈では、1998年5月のスハルト体制崩壊「前」に発生した華人への暴力を彷彿させる事案が、歴史的には1940年代に発生していた。この類似性を指摘した研究は皆無である。

3. 研究の方法

本研究は歴史的な手法を用いて調査し、政治学的な観点から分析した。第一に、オランダとインドネシアにおいて公文書を収集し分析する。インドネシア国立史料館(ジャカルタ)、インドネシア国立図書館(ジャカルタ)、オランダ王立史料館(デン・ハーグ)、オランダ王立戦争・ホロコースト・ジュノサイド研究所(NIOD、アムステルダム)、オランダ王立東南アジアおよびカリブ研究所(レイデン)。調査のポイントは1942年、1945年、1948年に関する記録を発掘することであった。第二に、1940年代の新聞と雑誌(インドネシア語、華語、オランダ語)の収集と分析。インドネシア国立図書館、ジョクジャ・ライブラリー・センター(インドネシア)、オランダ王立東南アジアおよびカリブ研究所。第三はインドネシアでの聞き取り調査。スマラン、ジャバラ、パティ、スラカルタ、ジョクジャカルタなど(中ジャワ)、マナド(北スラウェシ)、着

目点は、a) 虐殺に関する情報(記憶のされ方)、b) 華人国内難民の記録・情報、c) 華人系団体の支援活動についての記録、d) 記念碑の有無。

4. 研究成果

オランダ、インドネシアでの資料収集調査は当初の目的をある程度は達成することができた。当初本研究で注目したのは、オランダが統治の限界を迎えていた 1942 年前半に発生した華人虐殺(中ジャワ)と、オランダ軍が最終攻撃を仕掛けた 1948 年末の華人虐殺(東ジャワおよび中ジャワ)である。いずれも虐殺の主体は住民であった。

研究 1 年目はコロナ禍のために当初予定していたオランダやインドネシアでの調査は実施できなかった。インドネシア政治史、政治変動と暴力に関する主要研究を分析する時間に充てざるをなかった。研究 2 年目にはようやくインドネシアでの調査が可能となった。インドネシアでは 1940 年代のインドネシア語新聞の記事を収集、整理、分析することにあてた。1940 年代の華人虐殺については、当初考えていたほどの記事はなかったものの、一定程度の資料を収集することができた。

調査 3 年目にはようやくオランダでの調査が可能となった。3 か月間滞在した NIOD での資料調査をする過程では思いのほか新しい資料と出会うことができた。それは第二次世界大戦後にインドネシアから帰国したオランダ人に対して行った大量の聞き取り調査(証言)を文字おこした記録である。

インドネシア政治史研究では 1940 年から 1942 年は空白の時期となっている。当時のインドネシア語の新聞にはオランダ領東インド政府の動向に関する記事は極めて少なく、そこからは歴史を再構築することは不可能である。ところが NIOD での資料を紐解くと、当時の様子を再現できることがわかった。そこには従来インドネシア政治史研究では言及されることがなかった事実、すなわちオランダは 1940 年 5 月以降に植民地統治体制を転換させていた事実が詳細に記録として残されていた。インドネシアは戦時体制になっていたのである。ここから 1940 年代を通して、インドネシアは主体を換えた戦時体制であるという仮説を立てることができると考えるにいたった。戦時体制という分析枠組は 1940 年代のインドネシア史を再構築するための重要な手掛かりになる。この点はこれからの研究課題として取り組みたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yamamoto Nobuto	4. 巻 97
2. 論文標題 Now There is No Government: Rampok of 1942 in Indonesia	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Law, Politics and Sociology	6. 最初と最後の頁 1 - 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Yamamoto Nobuto
2. 発表標題 Now There is No Government: Indonesia in 1942
3. 学会等名 Coffee Lecture at NIOD Institute for War, Holocaust and Genocide Studies
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yamamoto Nobuto
2. 発表標題 Historicizing "rampok"
3. 学会等名 Public Lecture at Graduate School, University of Sam Ratulangi
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	チャンドラ エリザベス (Chandra Elizabeth) (80726753)	慶應義塾大学・国際センター（三田）・講師（非常勤） (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------